



株式会社ユーグレナ

2025 年 12 月期第二四半期決算説明会

2025 年 8 月 8 日

イベント概要

[企業名]	株式会社ユーグレナ		
[企業 ID]	2931		
[イベント言語]	JPN		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2025 年 12 月期第二四半期決算説明会		
[決算期]	2025 年度 第 2 四半期		
[日程]	2025 年 8 月 8 日		
[ページ数]	42		
[時間]	16:00 – 16:51 (合計：51 分、登壇：47 分、質疑応答：4 分)		
[開催場所]	インターネット配信		
[会場面積]			
[出席人数]	30～50 名		
[登壇者]	2 名		
	取締役代表執行役員 Co-CEO 兼 CFiO	若原	智広（以下、若原）
	取締役代表執行役員 Co-CEO 兼 COO	植村	弘子（以下、植村）

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

登壇

西田：本日はお忙しい中、株式会社ユーグレナ、2025 年 12 月期第二四半期決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

司会を務めさせていただきます、株式会社ユーグレナ、西田でございます。よろしくお願いいたします。本日の説明会は前半 40 分で、本日 8 月 8 日 15 時半に開示した資料をもとに Co-CEO より決算についてご説明をさせていただきます。

その後、残り 20 分間が質疑応答のお時間となっております。説明会に先立ちまして、本日の Zoom ウェビナーの運営について事前に 2 点、留意事項をご案内申し上げます。1 点目、ご視聴にあたり、ご参加いただいている皆様の映像や音声は、運営や他のご参加者様には届いておりませんので、ご安心ください。2 点目、16 時 40 分ごろから質疑応答を予定しております。

それでは、決算説明会を開始いたします。よろしくお願いいたします。

植村：本日は皆様、お忙しい中ご参加いただきまして誠にありがとうございます Co-CEO の植村でございます。最初に、皆さんにお伝えしたいことがございます。明日 2025 年 8 月 9 日、ユーグレナ社は 20 周年を迎えることになります。この場をお借りして、今までお支えいただいている皆様に心よりの御礼を申し上げます。本当にありがとうございます。本日はせっかくの機会ですので、20 周年の振り返りも含めながらのご説明をさせていただければと思います。よろしくお願いいたします。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



エグゼクティブサマリー

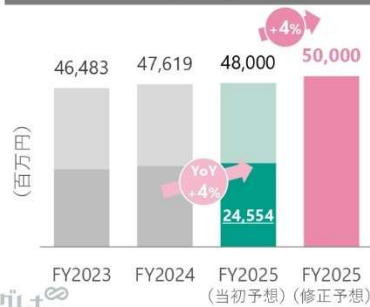
2025年度上期進捗

- 主要子会社の売上成長と収益構造改善効果が想定を上回り、**営業利益は前年同期比8倍増**
- バイオ燃料商業プラントの建設・運営を担う**マレーシア合弁会社への15%出資が完了**
- 微細藻類入り肥料・飼料ブランド（いきものたちにユーグレナ）の本格始動

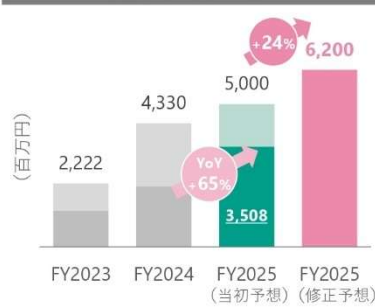
今後の展望

- 通期業績予想を**売上高500億円・調整後EBITDA62億円・営業利益24億円**へ上方修正
- 微細藻類軸での「探索」と既存事業の「深化」で、次の10年の成長を目指す
- ファインケミカルを追加した『**新バイオマスの5F**』を基本戦略とし、微細藻類の生産量拡大と市場創出を目指す

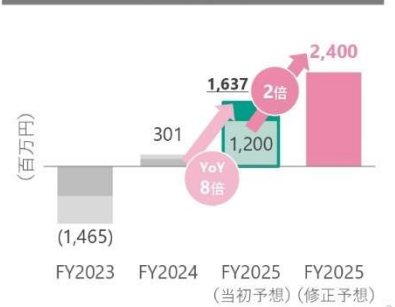
売上高



調整後EBITDA



営業利益



それでは、私の方からまず、エグゼクティブサマリーをご説明させていただければと思います。

2025年度上期進捗と今後の展望についてです。

上期の進捗については大きく3点ございます。

まず、業績につきましては好調に推移をいたしました。特にお伝えしたいのは、営業利益、前年同期比で8倍という形で、2億円から16億円の進捗になりました。要因については二つございます。一つ目は、子会社のキューサイグループおよびサティス製薬グループの売上が想定以上に進捗をしたということにございます。二つ目は、キューサイ、ユーグレナ社の広告宣伝投資効率の改善や、グループ全体について、売上原価の削減、販売削減が調整後EBITDA、営業利益の改善につながっているということです。

そして進捗の2点目については、こちらはすでにお伝えをしまいましたが、バイオ燃料商業プラントの建設を担う合弁会社への15%出資が無事に完了をいたしました。

そして3点目です。我々にとって、第3の柱である肥料・飼料の領域において、微細藻類を入れた肥料・飼料の新ブランドの発表および販売の開始にいたしました。1次産業の課題において、この商品を通して、土壌の耐性や、免疫向上に寄与していきたいと、ここからいよいよ本格始動をします。事業の大きなところにつきましては、以上3点が上期の進捗になります。

サポート

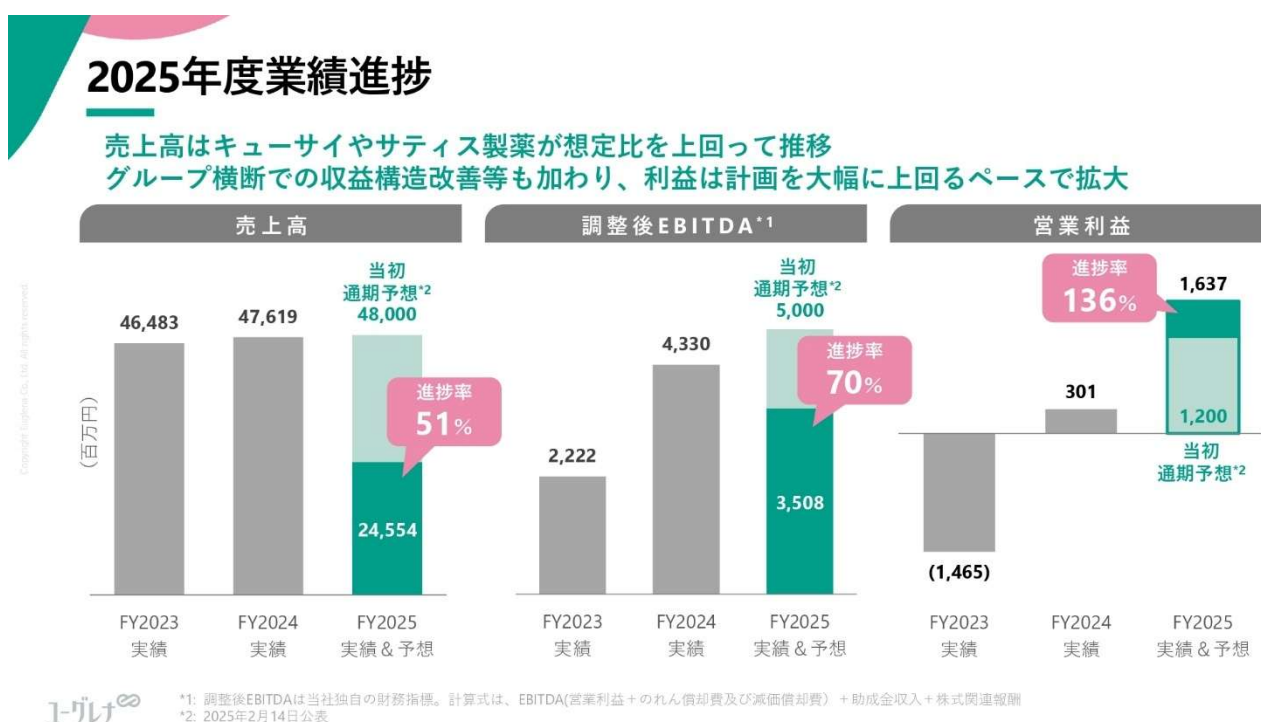
日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

そして今後の展望についてです。通期の業績予想につきましては、売上高 500 億円、調整後 EBITDA62 億円、営業利益 24 億円と上方修正をさせていただきました。こちらは覚悟を持って、しっかり達成に向けて進捗を続けていきたいと思っております。そして、我々2人がCEOになった際に、まず原点回帰し、経営体制をしっかりと見直し、黒字化をしっかりとやっていくということを申し上げました。いろいろな厳しいジャッジメントも行っていましたけれども、進捗はしっかり進んでおると認識をしております。ここから既存事業については、「深化」として引き続き伸ばしていくこと。そしてさらに、我々の大元である微細藻類軸での「探索」をさらに深めていきたいと考えております。

本日は、ファインケミカルを追加した新バイオマス 5F の戦略を一部共有させていただきまして、微細藻類の生産量拡大に向けての進捗というのを少しお話できたらと考えております。

それでは、ここから詳しいことにつきまして、若原の方からご説明させていただきます。

若原：Co-CEO の若原です。最初にこの上期の業績の進捗に関して、簡単にご説明いたします。



上期ですけれども、売上高は進捗率 51%で想定を少し上回る形になっております。

植村が説明したように、キューサイ、サティスといった主要子会社あるいはユーグレナのヘルスケアがしっかりと進捗して順調な滑り出しになったと考えております。

サポート

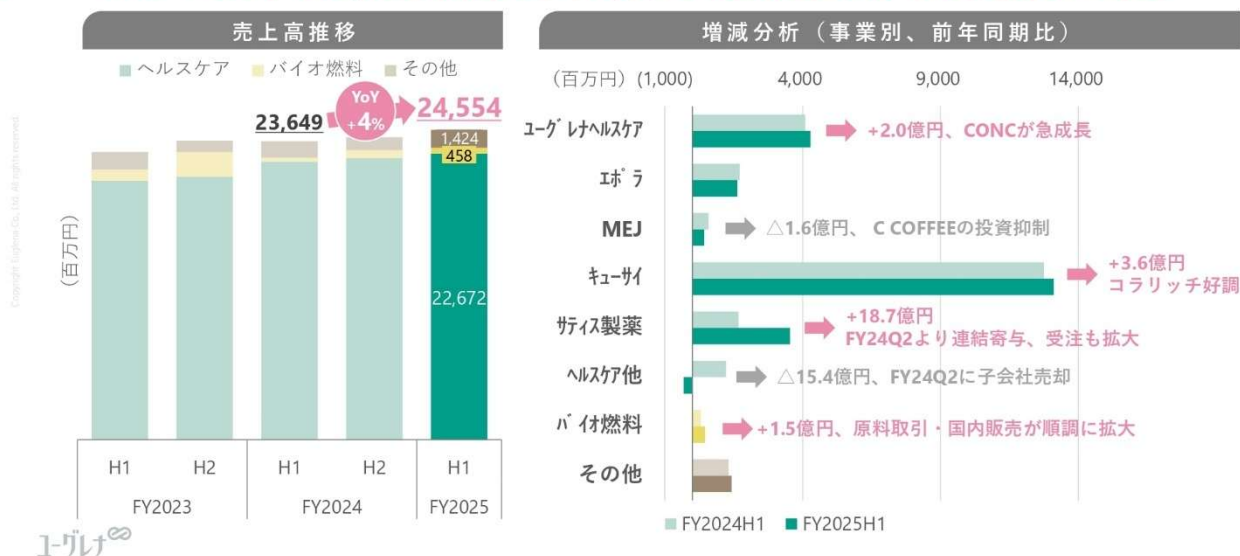
日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

より大きく進捗したのが調整後 EBITDA、そして営業利益になります。調整後 EBITDA に関しては、当初予想に対して 70%、営業利益に関しては当初の予想を上期時点で上回る進捗になっております。このように利益が拡大した要因に関してこれからご説明していきます。

売上高ですけれども、前年同期比 4%の成長になります。大きなところとしてはサティス製薬、昨年の第 2 四半期から連結化しておりますけれども、この上期は第 1 四半期、第 2 四半期、フルの連結寄与になっておりますので、その増加分が一定程度あったのは、指摘できるところであります。

売上高

CONC・コラリッチの顧客数拡大及びサティス製薬の連結寄与等により、前年同期比で+4%成長



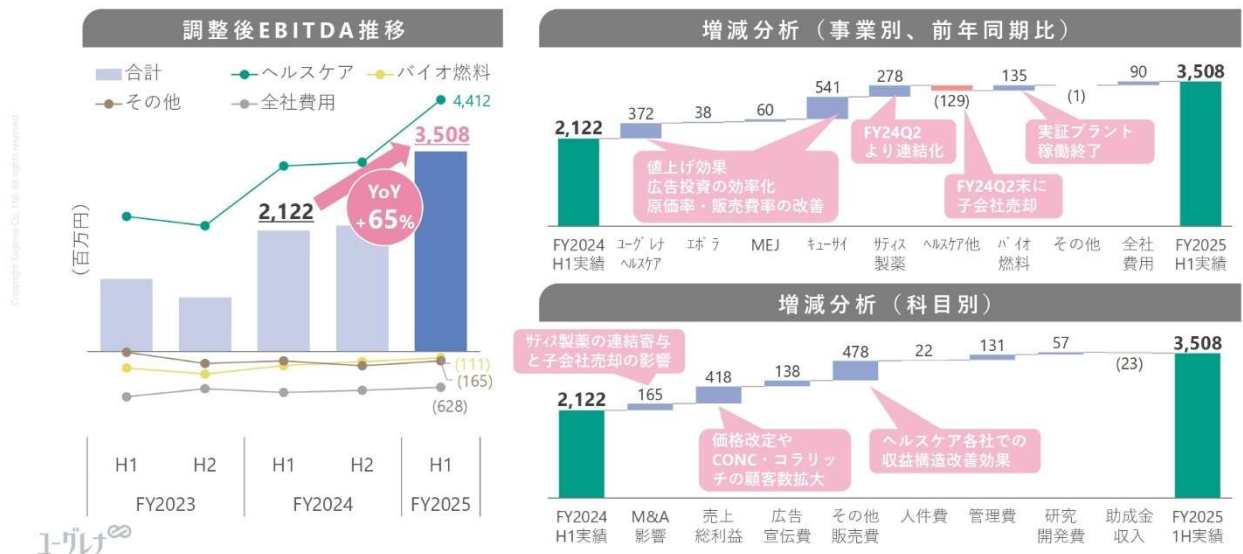
一方、キューサイに関しても、今年の年明けにリニューアルをしたコラリッチが好調に推移しており、そのプラス分。それからユーグレナヘルスケアに関しても、昨年から成長を続けている CONC が引き続き好調というところ、あるいはバイオ燃料に関しても順調に拡大中というところで、全体で見ると少しでこぼこはありますが、トータルではしっかりプラスに持ってくれた点が上期のアップサイドと言えます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

調整後EBITDA

ヘルスケアでの価格改定や各種コスト削減施策が奏功し、調整後EBITDAが+65%の大幅増



今回やはり大きくハイライトしたいのが、調整後 EBITDA になります。YoY で見ると、プラス 65%という非常に大きな拡大になっております。

グループ会社別で見ると、ユーグレナそしてキューサイが大きくなっています。一つの要因としては、ユーグレナの定期のお客さま向けの主力商品、からだにユーグレナの値上げや、キューサイの年明け以降のコラリッチのリニューアル等が寄与していますし、また科目別増減分析でご覧いただくと見えるように、その他販売費に表れている様々なコスト削減の取り組みといったものも大きく寄与しているところになります。

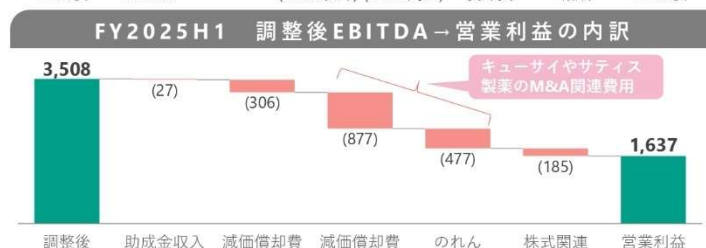
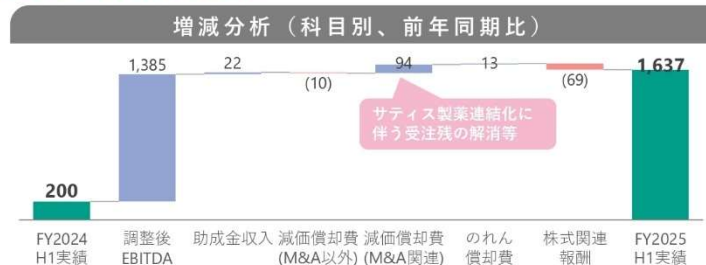
また、グループ会社のサティス製薬グループの業績も拡大し、利益も大きく増えたというところで、しっかりとした調整後 EBITDA の拡大が達成できました。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

営業利益*1

調整後EBITDAの拡大で営業利益は8倍増、黒字体質が定着



エーゲ

*1: サティス製薬及び日本ビューテック連結化に伴うPPA (のれんの識別可能資産 (顧客関連資産、受注残) への配分) の結果をFY2024Q2に遡及適用

8

営業利益に関しては、調整後 EBITDA が増えた部分が、基本的にスライドする形になっております。結果的に前年同期比では 8 倍という形になっております。

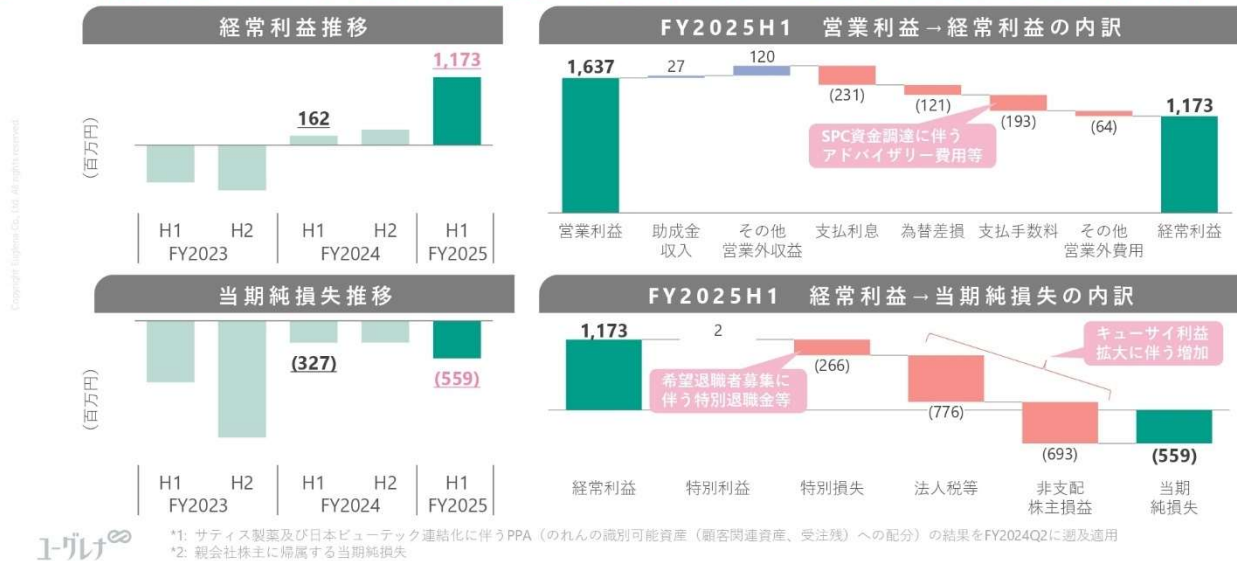
調整後 EBITDA が十分拡大した結果、これまでは過去の M&A に伴うのれん償却費、あるいは無形資産の償却費といったものが上回ってしまい、赤字が続いておりましたけれども、昨年ここが黒字化し、今回その黒字がより拡大、黒字の体質というものがしっかり定着できた、そして拡大に向けて着々と進めていると言えると考えております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

経常利益*1／当期純損失*1,2

特別損失やキューサイ関連の法人税等・非支配株主損益の影響で、最終損益は5.6億円の赤字



エーゲ

*1: サティス製薬及び日本ビューテック連結化に伴うPPA（のれんの識別可能資産（顧客関連資産、受注残）への配分）の結果をFY2024Q2に遡及適用
*2: 親会社株主に帰属する当期純損失

9

経常利益は、ほぼ営業利益と同じような動きになっております。

最後に当期純損益に関しては、引き続き上期も赤字となっております。今回キューサイが伸びたところはありませんけれども、キューサイに関しては、我々の持分は49%。51%部分に関してはいわゆる少数株主持分というものが、純利益段階では引かれることになります。それらの影響もあり、当期の純損失というところはまだ続いております。

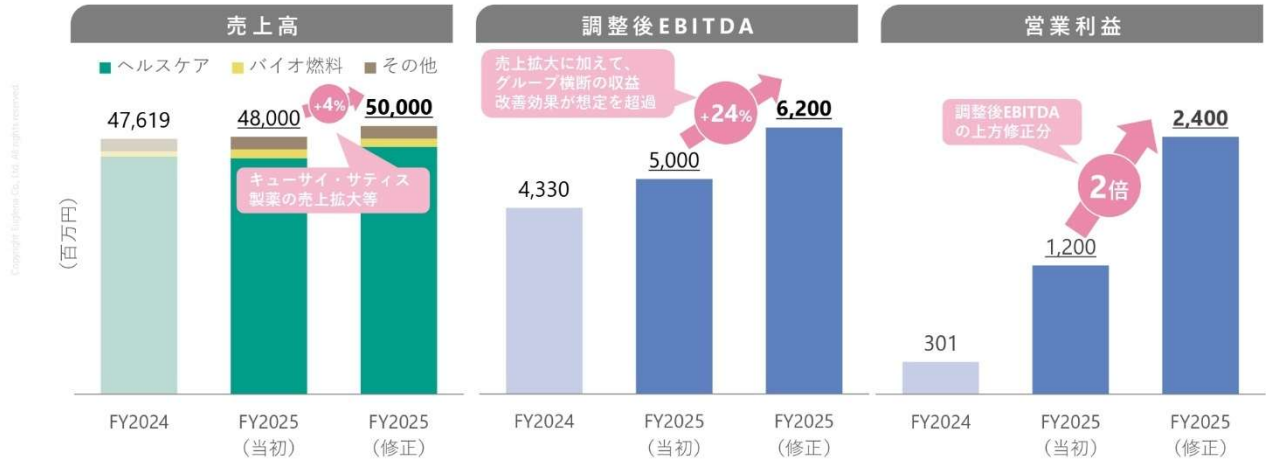
また、この上期に実施した希望退職の募集による特別損失というところもあります。今後トップラインそして調整後 EBITDA を拡大することで、このボトムの黒字化というところも目指していきたいと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

2025年度業績予想の上方修正

キューサイ・サティス製薬の売上拡大とグループ横断の収益改善効果が想定を上回ったことを踏まえ、通期業績予想を上方修正*1。営業利益予想は当初比2倍へ



エーザ

*1: 2025年7月25日公表

10

そして、7月末に発表したのが、業績予想の上方修正になります。今回売上に関しては、キューサイあるいはサティス製薬の売上が順調に拡大しており、下期もそこが継続すると見ております。それを踏まえて、480億円から500億円で4%引き上げをしております。

また調整後 EBITDA に関しては、上期のかなり好調な進捗、そしてこれが一過性のものではなく、これまでの販管費の削減等の取り組みがしっかり定着したと判断し、今回調整後 EBITDA に関してはプラス24%の62億円へ引き上げております。

営業利益に関しては、この調整後 EBITDA の上振れ分がそのままスライドをし、当初予想から2倍となる24億円に修正をしております。

以上のように、上期は非常に好調な業績が達成できたと思っておりますし、下期も引き続きこのトレンドを継続できる、継続していくという覚悟で、引き続き臨んでまいりたいと思っております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

中期経営方針の進捗

「黒字体質への転換」は前期に達成、今期のテーマは黒字定着と売上成長
「原点回帰」と「バイオマスの5F&両利きの経営」に基づき、新たな成長戦略を構築



フィロソフィー（経営哲学）

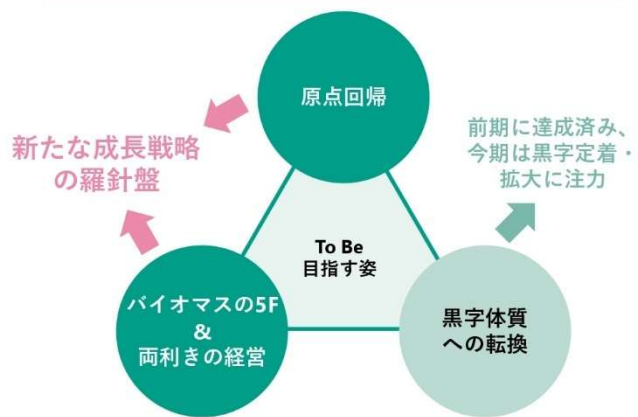
Sustainability First
サステナビリティ・ファースト

パーパス（存在意義）

人と地球を健康にする

ユグレ

中期経営方針



12

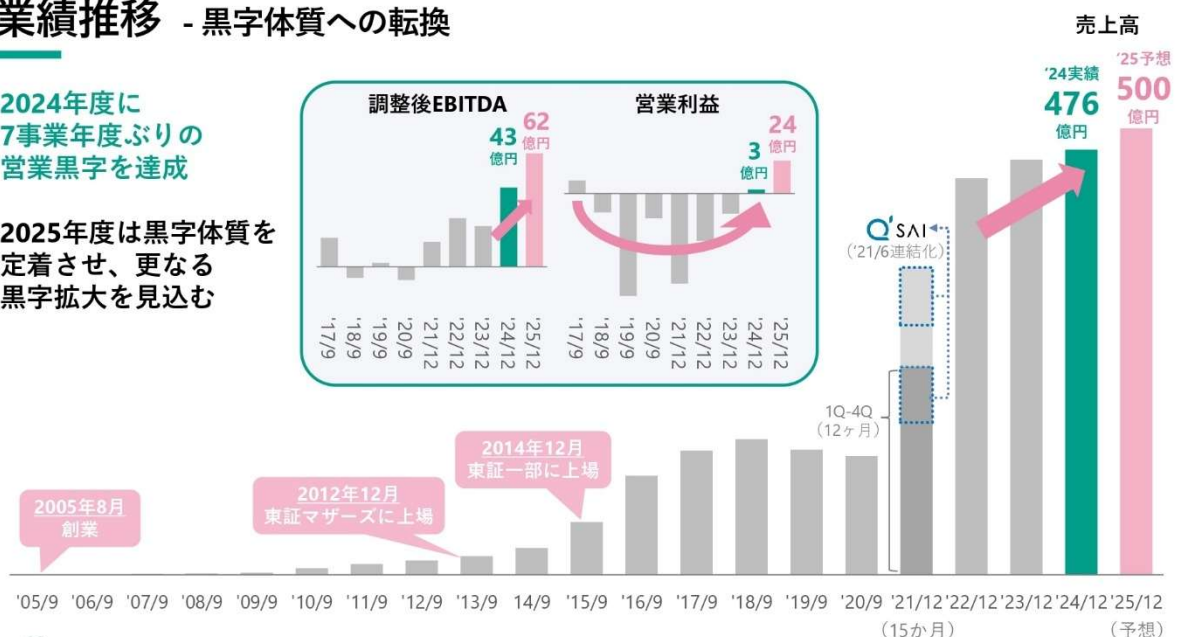
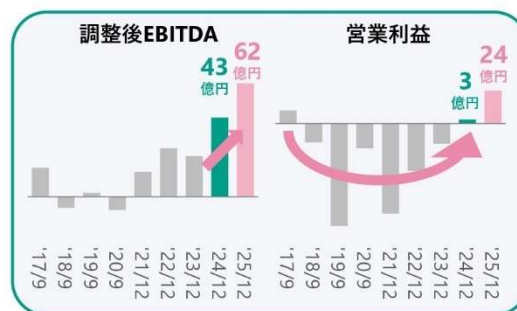
次に各事業のアップデートをする前に、今回 20 周年というところもありますので、私と植村が 24 年に Co-CEO に就任した際に掲げた中期経営方針の進捗、そしてこの 20 周年の節目を踏まえて、これまでの変遷、そして今後の展望というものを、先にお話したいと思います。

まず、中期経営方針の進捗ですけれども、昨年の 2024 年に掲げたのがこの三つ。原点回帰、バイオマスの 5F と両利きの経営、そして黒字体質への転換になります。

業績推移 - 黒字体質への転換

2024年度に
7事業年度ぶりの
営業黒字を達成

2025年度は黒字体質を
定着させ、更なる
黒字拡大を見込む



ユグレ

注：2021年12月期は、決算期の変更（9月末→12月末）に伴い、2020年10月から2021年12月までの15ヶ月間の決算期

13

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

この黒字体質への転換に関しては、すでに昨年黒字化をし、今年はこれを定着させさらに拡大するというフェーズに入っております。ここに関しても、引き続き下期、気を抜かずしっかりとやっていく所存ですけれども、一方でさらに先を見ていくと、やはり重要になってくるのが売上の成長になってきます。ここに向けて、我々はこの原点回帰、あるいはこのバイオマスの5F、両利きの経営というものを掲げてまいりましたけれども、それを踏まえた今後の方向性に関して少しご説明をしてまいります。

まず、黒字体質への転換の振り返りに関しては、先ほどご説明したとおりです。しっかりと調整後 EBITDA、営業利益が黒字化を達成し、さらに拡大基調にあるというところになります。

変遷 - ヘルスケア事業

藻類中心の展開から、M&Aによる非連続成長とポートフォリオ拡充にシフト

自社藻類食品・化粧品は引き続き主力事業、OEM/素材/海外に更なる開拓の余地あり



14

そして、ここからが次の展望に向けた振り返りにまずなりますけれども、上場前ぐらいからの過去10年ぐらいの変遷を、事業別に簡単にまとめております。

まず、ヘルスケアですけれども、元々上場の頃はこのユーグレナファーム、ミドリムシを軸とした通販あるいはこのOEMの事業というところで、黒字化を達成した上で上場を果たし、拡大をしてきたというトレンドになります。

足元でも、からだにユーグレナ、しっかりと伸びておりますし、たくさんのお客様に支えていただいております。ユーグレナ食品を軸に成長している点は、創業以来、そして上場以来変わらず続いているところになります。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

また、もう一つ売上の柱として立ち上がったのが、この化粧品というところで、ここも 2014 年ぐらいから、少しずつラインナップを広げてきて今にいたっております。

一方、我々の成長をもう一つ支えてきた要素として M&A があります。元々、上場直後に実施した M&A というのは、いわゆる微細藻類、ユーグレナやクロレラ、そういった観点での M&A が中心でした。その後、2018 年頃から徐々に M&A による非連続成長とポートフォリオ拡充といった観点で、藻類以外のポートフォリオを広めてきたと言えるかと思います。特に足元で寄与が大きいのがこのキューサイ、あるいはサティス製薬というところになっております。この微細藻類を軸と、藻類以外のところで今ポートフォリオが広がってきているというのがまずヘルスケアの変遷になります。

変遷 - バイオ燃料事業

商業プラントへの15%出資が確定、パイオニアとして製品製造に目途

原料調達・販売網拡大に取り組みつつ、原点である藻油供給実現に向けた研究開発を継続



バイオ燃料も同様のことが言えます。元々ミドリムシをバイオ燃料原料として、バイオ燃料を作っていくと、それを目指して研究を続けてきております。この研究を続けているということ自体は今も、もちろん変わりはありませんし、最終的な目標は微細藻類由来バイオ燃料を商業生産するという目標自体も変わりはありません。

一方、ここ進めていく中で、我々はこのバイオ燃料を製造する工程、そして販売をしていく、この供給網を作っていくということにも取り組んできております。2014 年の DeuSEL プロジェクト、18 年からの実証プラント、こういった取り組みを通じて、ミドリムシをバイオ燃料原料として使

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

えることの実証は並行しつつ、バイオ燃料自体を作る製造や、それを広げていく販売網の拡大、そういったところにも取り組みを広げてきているというところになります。

我々としては当然、バイオ燃料の原料が何であれ、CO₂排出量削減に貢献できるという意味では、非常にやる意義があると思っておりますし、今回 15%出資が確定したこのマレーシアのプラントに関しては、非常に大きなビジネスチャンスもあると考えております。こういったところで、微細藻類軸の研究そして微細藻類に限られない製造、販売網の拡大を進めてきたという整理になります。

変遷 - サステナブル・アグリテック事業

研究成果を活かして、機能性領域を中心に藻類肥料・飼料の本格展開を開始

製造・販売能力はM&Aやパートナーシップにより拡充、将来の藻類肥料・飼料販売の拡大につなげる



もう一つが今、第3の柱として取り組んでいるサステナブル・アグリテック、主に肥料・飼料の領域になります。

こちらに関しても、上場以降、研究をいろいろな形で進めてきておりますし、いくつかの商品あるいはコラボといったものを展開してきております。ここも引き続き継続しておりますけれども、最終的にこの肥料・飼料のビジネスを拡大するために、我々は藻類以外の事業のM&A等も実施をしてきています。

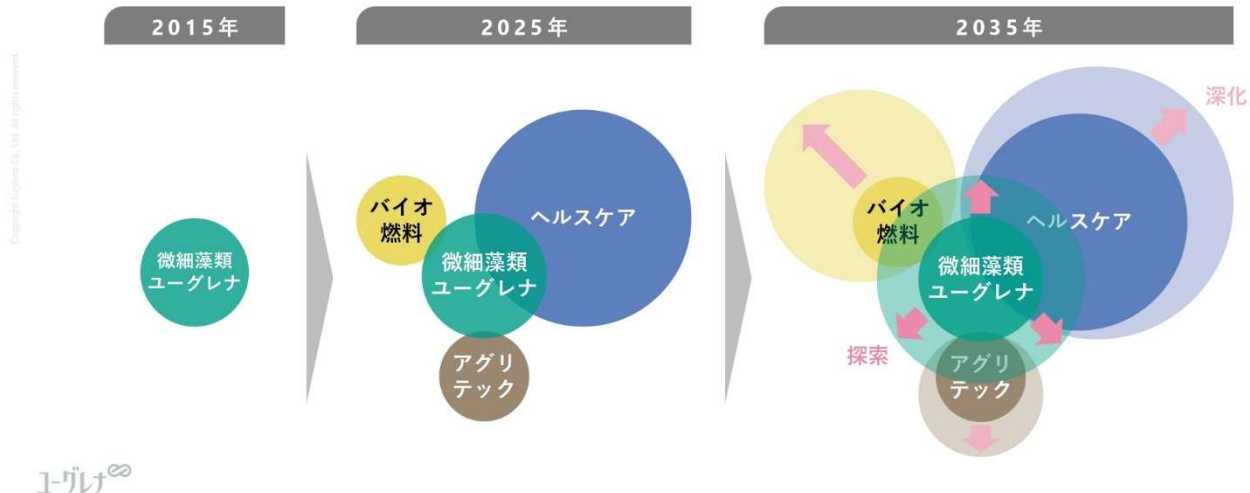
サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

事業ポートフォリオの変化 - 過去10年と次の10年

微細藻類を軸にヘルスケア・バイオ燃料・アグリテックとの重なりを強化

微細藻類軸での「探索」と既存事業の「深化」による「両利きの経営」で、次の10年の成長を目指す



こういった事業のポートフォリオの変化を少しイメージとしてまとめたのがこちらのスライドになります。

ちょうど10年前、2015年ぐらいというのは、まだまだほぼ全ての事業がユーグレナ、ミドリムシ1本でやっていたと言えるかと思います。

これは現在25年においてはヘルスケア、バイオ燃料、そしてアグリと三つの事業が徐々に立ち上がってきていますが、必ずしもこのユーグレナ、微細藻類と重なっているわけではなく、ヘルスケアに関しては、もちろん一部引き続き重なっていますが、やはりキューサイ、サティス製薬グループというところが大きく貢献しておりますし、バイオ燃料も今は廃食油由来のバイオ燃料の販売でしたり、アグリにおいては一般的な有機肥料の販売、そういったものが売上を構成しています。

これを次の10年どうしていくかというところでイメージを示したのが、この2035年と書いてあるところになります。当然、やはり売上、利益をしっかりと出していくことは大事ですので、この既存のヘルスケア、バイオ燃料、アグリテックに関しては引き続き成長を目指していく、そういった方向に変わりはありません。特にバイオ燃料に関しては、マレーシアのプラントが稼働することで大きく飛躍することが見込まれています。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

両利きの経営というのは、既存の事業の深掘る「深化」、そして新たな領域の「探索」という2つのワードがありますけれども、これまでの10年はまさにこのユーグレナ以外のところのヘルスケア、バイオ燃料、アグリに関して「深化」をしてきたと言えるかと思います。

一方、今後10年で今回改めて再定義をしたのがこのユーグレナを軸に「探索」をしていく、要はこのユーグレナ中心のところを改めてしっかりと広げていくということを目指していきます。まさに、この「探索」の領域を微細藻類軸でやっていくというのが、次の10年の一つの指針としていきたいと考えております。

微細藻類軸の「探索」 - 新バイオマスの5F

ファインケミカル（高機能原料）を加えた当社独自の『新バイオマスの5F』を基本戦略とし、抽出成分や加工製品の販売を通じて、微細藻類の生産量拡大を目指す



18

この微細藻類軸で「探索」、新たな領域を切り開いていくという上での基本戦略として今回、従来から基本戦略としてきたバイオマスの5Fというものを少しだけアップデートしております。

バイオマスの5Fというのは、あるバイオマス素材を、重量単価が高い市場から参入をし、徐々に広げていくという戦略ですけれども、これまでフードの次にあったのが、ファイバー（繊維）でした。今回これを「ファインケミカル」と再定義し、逆に我々がこれまでやってきたこと、あるいは今後目指していく方向に関して、より整理をしました。

「ファインケミカル」というのは、我々としては高機能原料、具体的には特定の機能性成分やより純度の高い成分を抽出する概念を「ファインケミカル」と呼んでおります。

ケミカルというと、いわゆる化学のイメージがあるかもしれませんが、近年はバイオケミカルといった領域もあり、バイオの世界とケミカルは、ほぼ一体化しつつあります。そういう意味

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

で、我々はバイオテクノロジーを使って、高機能原料を使っていくというところを、食品の次のステージとして再定義をしたとご理解いただければと思います。

これまでも実際、「ファインケミカル」に関わる事業をやってきたと言えるかと思います。例えば化粧品に関しては、様々なユーグレナから抽出した加水分解成分や、オイル、エキスといったものをすでに素材として商品化してきております。これは一つの高機能原料の一例と言えるかと思います。

また、ちょうど今週発表しましたが、このパラミロン。ユーグレナの健康の重要な成分であるパラミロンに関して今回、国産では最高濃度となる食品原料を規格化するということを発表しております。

これまでは 59 種類の栄養素、そしてパラミロンが含まれたミドリムシ、ユーグレナというのがある意味、食品としての一つの定義でしたけれども、よりマーケットを広げていくという観点では、このパラミロンそのものにフォーカスしたやり方というものにポテンシャルがあると考えております。

そして、まだこれから先ですけれども、過去の研究で言うと、パラミロンを使ったプラスチック、フィルム、あるいはレーヨンといったものも作っております。こういったものも今後、新たな市場、新たな売上を作っていく可能性があるかと捉えています。

もう一つがワックスエステルです。これはユーグレナから抽出するいわゆる油脂になります。これまでは、このワックスエステルをバイオ燃料の原料として活用するということを目指してきました。その目指す方向にはもちろん変わりはないですけれども、燃料というのは最終ゴールで、どうしても単価が低い非常にチャレンジングな領域になりますので、その手前で対応することにより高付加価値な展開ができるのではないかと考えております。

例えばワックスエステルそのものも化粧品原料としてのポテンシャルがありますし、あるいは潤滑油といった普通の油よりも少し高機能な使い道というものが考えられます。このまさにバイオマスの 5F にしたがって、最終的には燃料を目指すにせよ、その手前でまず新たなビジネスを作って、しっかり収益化していくという観点で、この「ファインケミカル」におけるワックスエステルというものも一つの可能性があるかと考えております。

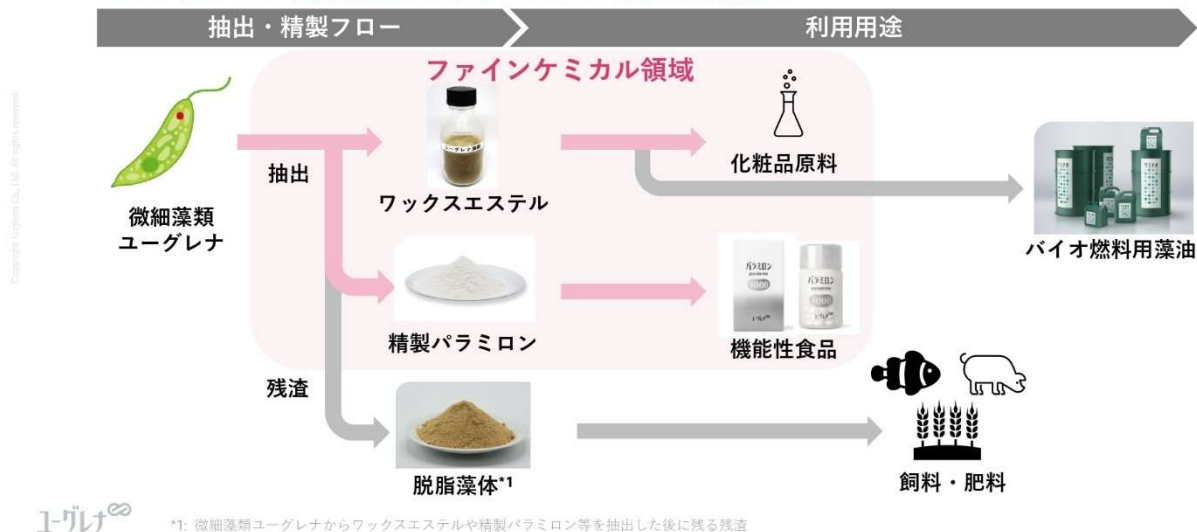
サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

微細藻類軸の「探索」 - ユーグレナの多段活用の可能性

微細藻類ユーグレナの全成分を多段階に活用し、藻体価値を最大化
サステナブルかつ高収益なビジネスモデルの確立を目指す



また、「ファインケミカル」を定義することで、ユーグレナの多段活用の可能性というものも大きくなってこになっていると思っております。

ユーグレナ、これを一つのいわゆるホールセルとして考えると、食品素材になるわけですが、ここを「ファインケミカル」で抽出をしていく、例えばワックスエステルをまず抽出し、残ったところにまだパラミロンが残っていれば、そのパラミロンも抽出し、そして残渣を脱脂藻体として抽出する。そして、この各々を化粧品原料であったり、機能性食品であったり、あるいは肥料・飼料として使っていく。そうすることで、単にユーグレナを食品素材として売っていく以外の新たな市場、新たな需要を作っていけると考えております。

逆に言うと、このユーグレナの可能性というものは、そういったところを越えた様々な転用の可能性があるというところにも面白い可能性があると言えるかと思います。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

微細藻類軸の「探索」 - 生産量の拡大

2030年まではファインケミカルや機能性肥料・飼料を切り口に技術開発と生産量拡大を推進

2030年代にバイオ燃料用藻油と脱脂藻体活用による代替肥料・飼料の本格展開開始を目指す



20

こういった微細藻類軸の「探索」をした上で、我々が今後目指していくのが、生産量の拡大です。これまでも、2030年代にこのバイオ燃料用の油、そしてその油を搾った後の脱脂藻体を肥料・飼料として使うことを目指していくとご説明してきております。

一方、やはりどうしても燃料原料というのは非常に単価が安い、コモディティのマーケットになりますのでそこにいたる道筋がどうかというところが大事になってきます。我々としては引き続き、この食品をしっかり伸ばしていくというところはもちろんやっていきますけれども、今後新たな切り口として、先ほどご説明したこの「ファインケミカル」というもので新たなニーズ需要を作り、生産量拡大にもつなげたいと考えております。

また、肥料・飼料に関しても、実は二つの領域があります。一つが機能性、もう一つが代替肥料・飼料で既存の肥料・飼料からの置き換えというところです。

この肥料・飼料の代替肥料・飼料というのは、やはり肥料・飼料そのものはコモディティなものですので、燃料と同じようにボリュームも必要ですし、相当コストが下がっている必要があります。

一方、このユーグレナを少し添加することで、肥料や飼料の価値が増す、機能性が増すという、そういう機能性肥料・飼料のマーケットであれば、より高単価で参入していけるポテンシャルがあると考えています。

そういった背景で今回新しい、「いきものたちにユーグレナ」というブランドも立ち上げておりますし、この「ファインケミカル」に加えて、この機能性肥料・飼料というところを軸に、まず今の

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

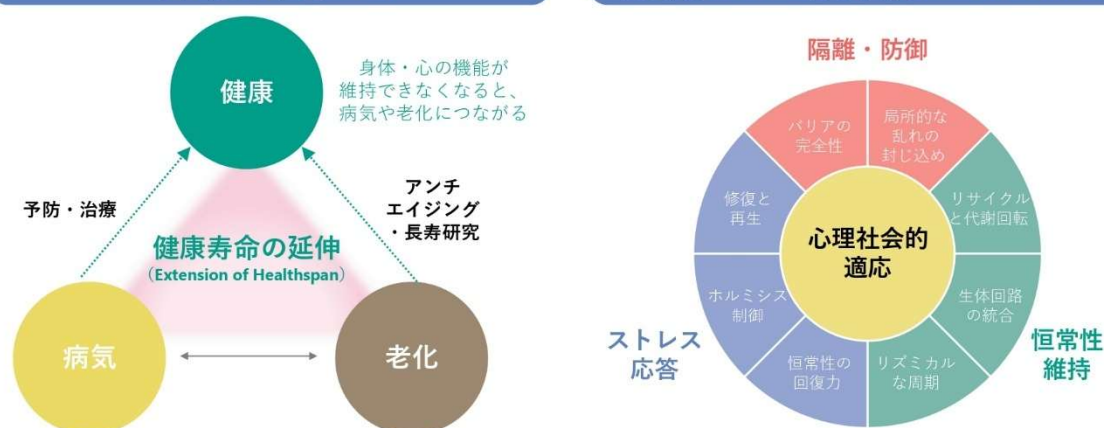
延長としての生産量の拡大をしっかりとしていく。そこで、この最終的な大規模化に向けた知見・技術を確認し、将来的なこのバイオ燃料の実現にもつなげていきたいと、これが今回微細藻類軸の「探索」で目指していく方向性になります。

人を健康にする - 「健康寿命延伸」に向けて

健康を「病なき状態」ではなく、身体・心の機能が維持され柔軟に対応できる状態と捉え、その基盤を科学的に体系化した概念が健康ホールマークス (Hallmarks of Health)

「人が健康である」とは？

健康維持のための主要な特徴 (Hallmarks of Health)



ユ・グレイ

出典: "Hallmarks of Health" (Cell, 2021 Jan, [https://www.cell.com/cell/pdf/S0092-8674\(20\)31606-8.pdf](https://www.cell.com/cell/pdf/S0092-8674(20)31606-8.pdf)) and "The missing hallmark of health: psychosocial adaptation" (Cell Stress, 2024 Mar, <https://www.cell-stress.com/wp-content/uploads/2023A-Lopez-Otin-Cell-Stress.pdf>), Carlos Lopez-Otin and Guido Kroemer

22

もう一つ我々が Co-CEO として掲げたポイントが原点回帰です。

やはりこういった領域で「探索」をしていくかというところで今回、我々は微細藻類というものを選びました。それはなぜかという、やはりこれが我々の原点であり、我々の強みだと考えているからです。

生産量を増やしていくためには、当然ニーズ、需要、出口が必要ですし、それを実現する技術が必要になります。我々は過去の研究の積み重ねで、こういった出口、そしてこの技術に関して、しっかりと蓄積がありますし、そこに大きなポテンシャルがあると考えております。

まず出口、将来的なニーズがどこにあるかというところです。少し専門的な話になるので詳しい説明は割愛いたしますけれども、例えばヘルスケアの領域におけるポテンシャルとしては、我々のパーパスでもある人を健康にする。

この健康というのは何だろうと改めて考えたときに、健康の反対の概念として例えば病気、あるいは老化といったものが挙げられます。この病気を戻す、老化を戻すというのは、一つのアプローチですが、特に病気を戻すのは医療になってきて、なかなかチャレンジングな領域になってきます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

一方、病気でないことが健康かという、必ずしもそうではないのではというのは皆さんも感じになるところかと思います。

我々としては、このユーグレナ、ミドリムシというのは、このそもそも健康である状態を支える。病気や老化にならない状態を維持できる、それをサポートできる、そして健康寿命の延伸ができる、そういった素材だと考えております。

人を健康にする - 【参考】健康維持のための主要な特徴

健康ホールマークス（Hallmarks of Health）は4つのカテゴリーと9つの主要な健康要素から成り、維持されることで健康寿命延伸に、破綻すると病気や老化につながる事が示唆

隔離・防御		恒常性維持	
バリアの完全性	- 上皮バリア - 粘膜バリア - 物理的バリア - 免疫バリア・粘膜免疫等	リサイクルと代謝回転	- オートファジー - タンパク質恒常性 - ミトコンドリア/リソソーム分解
局所的な乱れの封じ込め	- 炎症応答の限定 - 感染の局所封じ込め - 損傷信号の局所化	生体回路の統合	- 神経回路 - 免疫回路 - 内分泌回路 - 腸脳軸
ストレス応答		リズムカルな周期	
恒常性の回復力	- ストレス耐性 - 生理的基準値維持 - 適応応答	リズムカルな周期	- 概日リズム - 超日/亜日周期 - ホルモン周期
ホルミシス的調節	- 軽度ストレス対応 - 運動ホルミシス - 食事制限ホルミシス	心理社会的適応	
修復と再生	- 創傷治癒 - 幹/前駆細胞活性化 - 組織再生	心理社会的適応	- ストレス対処 - 社会的サポート - メンタルヘルス適応

適度なストレスや刺激が、生体にとって逆に有益な適応反応や強化をもたらす生物学的現象又は調節作用

ユーグレナ

出典: "Hallmarks of Health" (Cell, 2021 Jan, [https://www.cell.com/cell/pdf/S0092-8674\(20\)31606-8.pdf](https://www.cell.com/cell/pdf/S0092-8674(20)31606-8.pdf)) and "The missing hallmark of health: psychosocial adaptation" (Cell Stress, 2024 Mar, <https://www.cell-stress.com/wp-content/uploads/2023A-Lopez-Otin-Cell-Stress.pdf>), Carlos Lopez-Otin and Guido Kroemer

23

なかなかそれを説明するのが難しいとずっと考えていたんですけれども、今回一つの海外の論文で、この健康ホールマークスというのものがあつたのでそれを少しこちらに挙げております。

詳細は割愛いたしますが、この概念というのは、健康というのは、病気ではない状態ではなく、健康とはどういう状態かを積極的に定義をした、そういった概念になっています。

四つのカテゴリー、そして九つのテーマというところがありますけれども、これを我々の過去の研究成果をまとめてマッピングをしてみると、全てのこの領域、様子をカバーしていると言えるかなと思っております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

人を健康にする - 「健康寿命延伸」素材としてのユーグレナのポテンシャル

これまでに報告されているユーグレナの機能性に関する内外の研究成果の多くが、9つの健康の要素を網羅的にカバーしており、「健康寿命延伸」に寄与する素材としてのポテンシャルを示唆

59種類の
栄養素

細胞壁が無い
(消化しやすい)

ユーグレナ

隔離・防御	
バリアの完全性	- 腸内細菌の調整を介した腸粘膜のバリア強化 - 肌免疫細胞活性化、保湿を介した皮膚のバリア機能強化 - アトピー性皮膚炎症状の軽減
局所的な乱れの封じ込め	- 免疫細胞の調整を介した感冒症状の発生および重症化の抑制 - 宿主細胞の防御機構の活性化やサイトカインの産生調整を介したインフルエンザのウイルス増殖抑制・症状緩和 - 炎症性サイトカインの減少を介した胃粘膜炎症や腸炎症の抑制 - スギ花粉症症状の緩和 - 関節リウマチ症状の緩和
ストレス応答	
恒常性の回復力	- 疲労感の軽減 - 血糖値上昇の抑制 - 高強度運動時のアドレナリン分泌の抑制 - 自律神経バランス（LF/HF値）の調整
ホルミシスの調節	Dectin-1からの刺激を介した免疫バランス調整
修復と再生	- パラミロンの創傷治療効果 - 筋肉量の維持・運動機能低下の抑制 - 慢性腎障害モデルでの腎繊維化抑制 - NASHモデルでの肝臓の線維化の抑制

恒常性維持	
リサイクルと代謝回転	- 皮膚細胞の増殖・ターンオーバー促進 - 便秘改善 - 脂質、糖質代謝改善 - プリン体吸収抑制・血中尿酸値低減
生体回路の統合	- 認知機能における認知機能速度や運動速度の向上、記憶維持 - 腸内細菌叢のバランス調整 - 免疫・神経・腸管でのCaシグナル陽性 - 脳由来神経栄養因子（BDNF）の上昇
リズムカルな周期	- 睡眠の質の向上 - 体内時計の調整
心理社会的適応	
心理社会的適応	- 心の健康スコアの改善 - 作業ストレス時のイライラ感や緊張感の抑制 - コルチゾール分泌抑制等 - 化粧品素材としての活用

※一部の作用は複数のホルマールに関連する可能性があります、本整理では便宜的に最も代表的な関連ホルマールのもとに記載しています。

24

つまり、ミドリムシというのは、健康を定義する要素をカバーする、しかも網羅的にカバーできる、そういったポテンシャルを持った健康寿命延伸素材として位置づけられると言えるかと思えます。

これまでも59種類の栄養素、あるいは消化しやすい、そういった要素は上げてきましたし、それを支えるパラミロンの機能性というものをいろいろご説明してきましたけれども、この積み重ねをまとめると、健康を網羅的に定義できる。これは大きなポテンシャルだと思っていますし、逆にここをもっと深掘りをしていくことで、ヘルスケア領域においても、新たなポテンシャルがあるのではないかと考えています。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

地球を健康にする - バイオ燃料原料としてのユーグレナのポテンシャル

サステナブルな原料ソースとして、藻油は様々な優位性を有する

バイオ燃料原料としての利用可能性は実証済みで、残る課題はボリュームとコスト

1 複数の培養方法にチャレンジ可能

- 独立栄養培養
- 従属栄養培養

2 細胞壁が無く、油脂抽出が容易

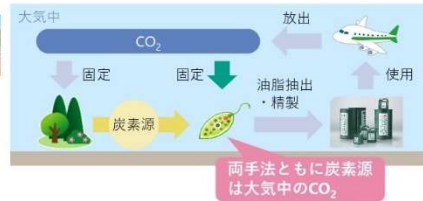
- 他の藻類と比べて低コスト・低エネルギーで油脂抽出が可能

3 SAF製造に適したワックスエステル^{*1}を生成

- 低エネルギー・低水素使用量でSAF製造が可能

4 脱脂藻体の多様な用途

- 脱脂藻体を飼料・肥料販売することで、製造コストの低減が可能



ユーグレナ

*1: 微細藻類ユーグレナが体内に生成する脂質成分

*2: 農林水産省 消費・安全局食品安全政策課 油脂参照(https://www.maff.go.jp/j/syoutan/seisaku/trans_fat/t_kihon/fat_oil.html)

25

地球を健康にする、ここはもうこれまでも何度もご説明してまいりますので割愛しますが、やはり最後の壁はコストとボリュームであり、そこが実現できれば、原料としてのポテンシャルは非常に有望だと考えております。

当社の技術力 - ファインケミカル素材としてのパラミロンの規格化

パラミロン原料を規格化し、パラミロン高配合の新商品（食品）を新発売

	食品用	化粧品用
原料規格化	● 食品素材として国産最高濃度の「精製パラミロン」を開発、食品用途の活用・大量生産に向けて原料規格化	● 医薬部外品・化粧品原料「パラミロン原末（ユーグレナ多糖体）」を開発、規格化。医薬部外品にも配合可能な原料
商品化	● 希少成分パラミロンを高配合した「パラミロン1000」を新発売	
R&D	● 絶食時のパラミロン摂取により短期間で腸内環境と免疫機能に関する効果が期待できる可能性を確認	泡立ち後の洗顔料の泡の顕微鏡写真

➡ 自社商品に加え、他社向け原料販売とOEM拡大を通じて、微細藻類の生産量拡大を目指す

ユーグレナ

26

もう一つは技術面になります。生産量を拡大していく、そして出口、需要を作っていくための技術として、今回「ファインケミカル」の一例となる、精製パラミロンの規格化というものに成功して

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

おります。そして、パラミロン高配合の商品発売といったものも行っております。単純にパラミロン自体を精製することは、もちろん技術的には可能ですけれども、今回の精製パラミオンというのは、よりそのコストと精製のバランスを非常に上手く取った食品素材として規格したものになります。

パラミオン自体は無味無臭、色ありませんので、こういった形でより多くの食品に提供していく、あるいは食品メーカーに提案していく、そういったことも可能になります。こうすることで、これまでとはまた少し違うアプローチでの原料販売、あるいは OEM 拡大が生産量拡大にもつながっていくと考えています。

当社の技術力 - タンク培養によるスケールアップと低コスト化

バイオ燃料用藻油生産に向けたスケールアップと低コスト化のステップとして、食品・ファインケミカル・機能性肥料/飼料領域をターゲットとしたタンク培養を強化



もう一つが培養方法ですけれども、「ファインケミカル」というふうに定義をすると、少し変わってくる点があります。

我々はこれまで食品としては、この 59 種類の栄養素というものを非常に重視していましたし、それ自体の価値は変わっておりません。そして、それを実現するために、この光従属栄養培養という屋外タンクでの培養を続けてきております。

しかし、やはり生産量をより増やしていく、そしてコストを下げるためには、屋内のタンクでの培養の方がポテンシャルはあるというのも事実です。そして、タンク培養であっても、光を浴びることによる栄養素というものは少し減ってしまいますけれども、パラミロンをより増やす、あるいは油の量を増やす、そういった培養はよりやりやすくなっていきます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

そのため今回、この生産量の拡大に向けて今後、タンク培養というのはより強化していきたいと考えていますし、すでにそういったスケールアップにも取り組んでできているところです。

当社の技術力 - ゲノム編集技術

国産ゲノム編集技術を用いた品種改良の成功で産業展開が目前、次の課題は用途開発



最後がこのゲノム編集です。ここに関しても技術に関しては、国産ゲノム編集技術を用いた品種改良にすでに成功しています。

したがって、今後は用途開発というのがテーマになってくると考えています。すでにバイオ燃料向け、ヘルスケア原料向け、素材向けのゲノム編集というのはいくつか例が出てきていますが、今後は「ファインケミカル」領域において、ある特定の成分をよりたくさん作るユーグレナのゲノム編集を行う、そういった可能性がありますし、それを実現するための技術を持っているというところになります。

以上が、我々の今後、微細藻類軸で探索をしていく方向感におけるポテンシャル、そしてそれを裏づけする技術あるいは可能性の説明になります。

簡単に各事業の進捗、そして既存事業に関してはより深掘りをしていく「深化」が大事になっていきますので、そこに関してアップデートしてまいります。

植村: ヘルスケア事業につきましては植村の方から説明をさせていただきます。

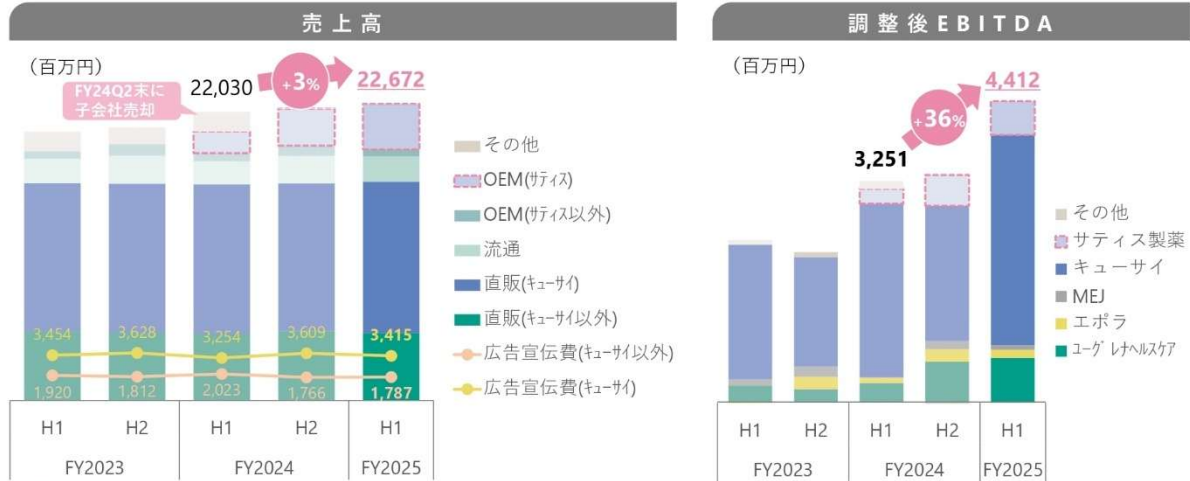
サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

業績トレンド - 売上高、調整後EBITDA

ユーグレナヘルスケアとキューサイの伸長で調整後EBITDAが大幅拡大

サティス製薬の連結化と事業成長も売上高・調整後EBITDA共に貢献



注: 「その他」には、2024年度に売却した子会社影響及びグループ内相殺等を含む

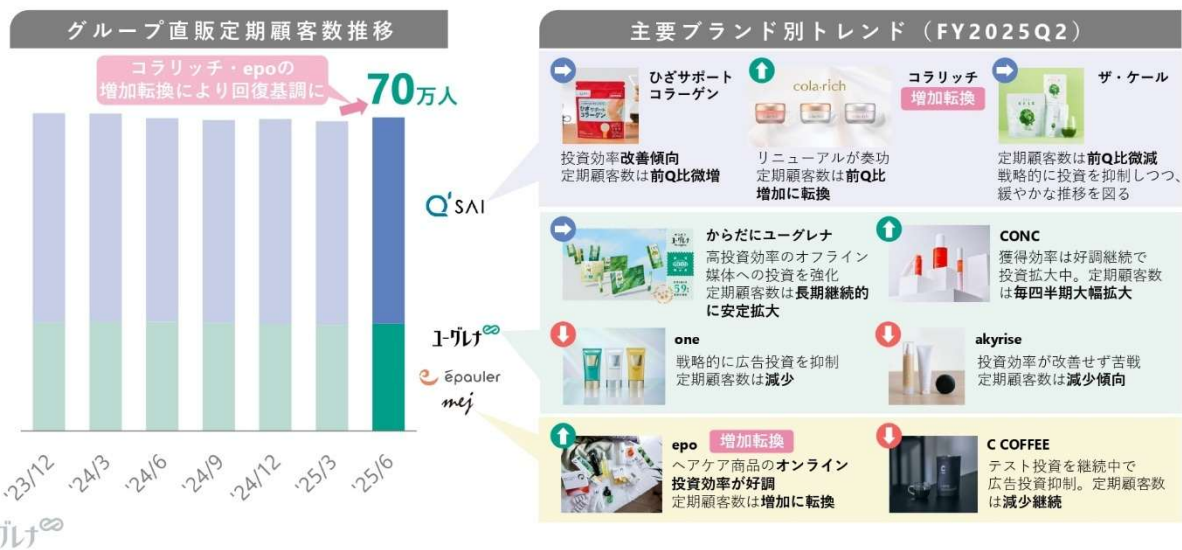
30

最初に、業績と直販の定期顧客数の推移についてお話いたします。

業績につきましては、先ほどから繰り返しのようになっておりますので、進捗については割愛させていただきますが、サティス製薬の売上のところについては、主力の既存顧客のお客様からの受注が多く伸びているというのが要因ですので、こちらは併せて下期についても進捗を図っていくと思います。

直販定期顧客数 - 主要ブランド別トレンド

効率の良いブランドに広告投資をアロケーションし、利益重視の経営を推進



31

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

そして、直販の定期顧客数についてです。こちらは、回復の基調になり、70 万人に推移しております。

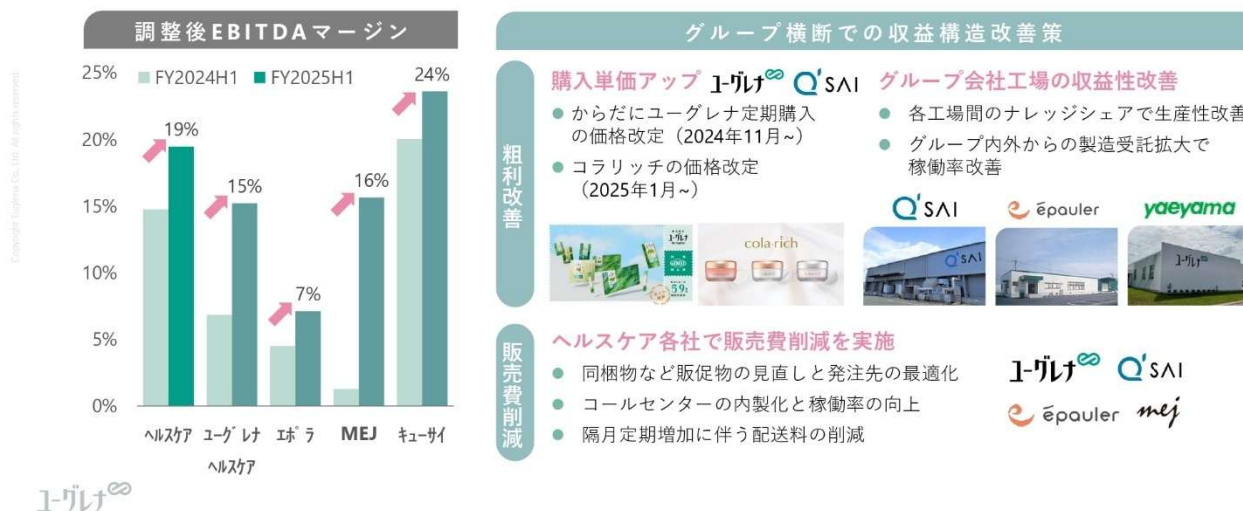
トレンドについては、大きく二つです。キューサイのコラリッチ、ユーグレナの CONC が伸びています。

広告費につきましては、グループ内で投資効率を見て、全体的にアロケーションを図りながら最適化を図っており、そこが良い循環を生んでいます。

①収益構造の筋肉質化 - 黒字定着

調整後EBITDAマージンがヘルスケア各社で改善

様々な収益構造改善策により、広告宣伝費投資を維持しながら黒字幅を拡大



そして次。ここからは、毎度ご説明をさせていただいているヘルスケアの中期経営方針3点になります。

まず、収益構造の筋肉質化というところです。

こちら、前回もグループでしっかりとグループシナジーを出していくんだという点についてお話をしたと思います。上期も、グループ横断でやっていることが改善として進んでいます。トピックスとしては、上期の中では工場の収益改善というところは大きく図れていると思います。

各工場のナレッジをちゃんとシェアして、そこから各工場がそれを持ち帰り、改善に進めていくという点。または、グループ内外からの製造の受託というのも積極的に受けながら、稼働率を改善し、売上を伸ばしていくところについても進捗しております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

②成長ブランドとファン顧客の育成 - マイクロニードル軸

好調が続くノック注入型マイクロニードル商品の横展開に注力

ナイアシンアミド高濃度配合の美白用途商品を新発売



チャネルの拡大

- 流通チャネル向け「CONC LABO」を全国ほぼ全てのLOFT・PLAZAおよびイオンの一部店舗に導入済
- ドラッグストア展開に向けて準備中

用途の拡大

1-グレイ

- ナイアシンアミド高濃度配合の美白用美容液「CONCブライティングインジェクション」を新発売

épauler

- 頭皮用美容液「FUSARI スカルプインジェクション」の投資拡大

33

2点目です。成長ブランドとファン顧客の育成というところについては2点お伝えをしたいと思います。

まず1点目 CONC、マイクロニードル商品というのは、引き続き上期も好調で推移しました。チャネルの拡大、用途の拡大、両方とも進んでおります。

チャネルについては、CONCの姉妹ブランドとして、CONC LABOという商品を2品発売いたしました。激戦区であるLOFT・PLAZAというような主要チャネルに、全国ほぼ全て導入が図れたというところは大きかった点かと思います。

用途につきましては、美白また頭皮というところで用途を拡大しておりますので、引き続きこちらは進捗をします。お客様の声から読むところによりますと、やはり今、美容医療の市場が拡大しているというところに、お客様も感度高く持っているなと思います。家で、自宅で気軽に、そういったことを感じながら、体験ができていると。そして、効果も実感できているという声が大きく聞こえてまいります。こちらについて、CONCは引き続き伸ばしていけると確信を持っております。

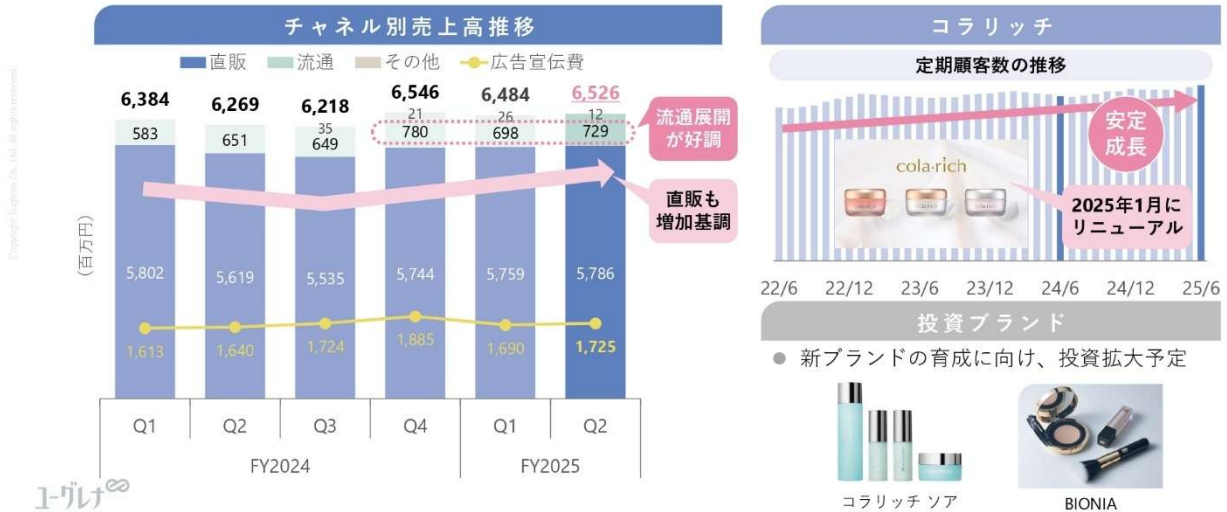
サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

②成長ブランドとファン顧客の育成 - キューサイ Q'SAI

直販の定期顧客数増加と流通チャネルの拡大により売上好調

新ブランド育成に向けた投資も実施



35

つづいて、キューサイについて少し触れさせていただきます。

キューサイについては2点です。

一つ、流通展開のところで、生協やドラッグが好調に推移をしているのが1点目です。

もう一つは、主力商品でありますコラリッチ。こちらが1月に中身も価格もリニューアルしたというところ。これによつての離脱というのは懸念材料ではありましたが、そこが全く感じられず安定的に成長しているというところが2点目になります。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

今後に向けて - 海外展開のポテンシャル

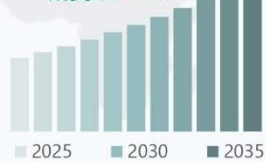
世界的な藻類市場の成長を背景に、ユーグレナやクロレラの粉末卸と商品展開の両軸で海外市場を開拓



機会

- スピルリナなど世界的な藻類市場の成長
- アジアにおける健康志向の高まり
- Made in Japan商品の逆輸入モデルの可能性

世界的な藻類市場の成長イメージ^{*1}



ユーグレナ

ユーグレナ

当社のケイパビリティ

- クロレラ原料は世界約40カ国への展開実績あり
- 米国GRAS認証・ハラール認証・コーシャ認証・ASC-MSC海藻認証で潜在市場にアクセス可能
- バイオ燃料商業プラントを有するマレーシアをアジア市場・イスラム市場への戦略拠点へ

37

最後に1点、海外に向けての今後のポテンシャルというところについて、お話をしたいと思います。

先ほど、20年の歴史というところも振り返ってまいりましたが、国内20年間しっかりやってきました。

ここからいよいよ海外に向けて進んでいきたいと考えております。企業としても黒字化がしっかり定着をできてきているということ。そして、バイオ燃料でマレーシアの基盤というのも作り始めております。

今回、大阪万博でも日本館のテーマの一つに、藻類というのがでてきました。やはり藻類の市場というのが世界的に注目を浴びているということ、健康志向の高まりが今後期待できるということも含めて、機会は整ってきているのではないかなと考えております。

今まで何もしてこなかったのかというと、そんなことはなく、クロレラ原料においては、世界40カ国の展開の実績もありますし、各国においての認証というのは地道に取ってきておるということもございます。ですので、マレーシアを中心としたアジア市場・イスラム市場というところを拠点に今後、具体的に進めていきたいと考えております。

このあたりについては、具体的なものがしっかり発表できる状態になりましたら、ご説明をさらにさせていただければと思っております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

ヘルスケアは以上になります。

ビジネスモデル - 商業化のイメージと今後のステップ

2025年7月に商業プラント出資比率が15%で確定し、製造面の主要マイルストーンを達成
約10万KL/年の取扱いに向けて、今後は原料調達/生産面と販売面における体制構築に注力



39

若原: では続いてバイオ燃料事業です。バイオ燃料事業は大きく原料、製造そして販売というステップに分かれていきます。

ここ1~2年、ずっと中心的に取り組んできたのが製造、プラントの持分の確保、そして建設というところでした。今年の6月にコールオプションを行使し、7月に無事に15%の出資が確定いたしました。この真ん中のところがようやく固まったというところで今後、プラントの完成に向けて、原料サイド、そして販売サイドの拡大に取り組んでいくことになります。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

1 原料調達/生産 - 2025年進捗

バイオ燃料取扱量10万KLに向けて、原料開発・調達に注力

バイオ燃料向け原料調達

産業廃棄油



- 廃食油回収及び油糧作物栽培の調査^{*1}
- 貧困・失業・CO₂排出ゼロに資するソーシャルビジネスを目指す



現地ガジプール農業大学と共同研究に取り組む覚書締結

藻類培養

藻類培養



PETRONAS Research社との共同研究

- バイオ燃料原料用微細藻類の大規模生産技術に関する包括的共同研究契約を締結



藻類培養向け糖源調査 @マレーシア

- パーム農業残渣バイオマスの活用可能性調査^{*2}
- UCO代替に資する藻油生産に向けバイオマス糖源確保を目指す



^{*1}: 当社の「バングラデシュ人民共和国/バングラデシュにおけるSAF向け原料サプライチェーン構築に向けた調査事業」（実施期間：2025年2月上旬～2025年12月、主な実施内容：UCO回収事業/油糧作物の栽培事業の調査）が、経済産業省「令和5年度補正グローバルサウス未来志向型共創等事業費助成金」に採択
^{*2}: 当社の「マレーシア/微細藻類培養の糖源としてのパーム農業残渣バイオマスの活用可能性調査事業」（実施期間：2025年4月～2026年2月、主な実施内容：バイオマス貯存量調査/資源化プロセスと事業モデルの検討及び資源化技術の適用性の調査）が、経済産業省「令和5年度補正グローバルサウス未来志向型共創等事業費助成金」に採択

40

原料サイドは今、いろんな助成金をいただきながら、着々と拡大しておりますし、これ以外にも様々原料拡大に向けて取り組みをしてきております。

2 商業プラント - 出資比率15%への引上げ完了

2025年7月に15%出資が完了、年間約10万KLのバイオ燃料取り扱いが可能に

当社の収益ポテンシャル^{*1}は、売上高300億円規模、税引前利益60億円以上



- PETRONAS社のPengerang Integrated Complex (PIC)内に建設
- 2025年より建設着手済み、2028年下期迄の稼働開始を予定
- プロジェクト金額は約13億ドル



PENGERANG BIOREFINERY
(3社合弁会社)

当社シェア15%確定で
年間約10万KLの
取り扱いが可能に

アジア最大級のバイオ燃料製造プラント

- 製造能力は約72.5万KL/年、需給に応じてSAFとHVOをフレキシブルに生産
- 原料供給ソースや主要な国際航路にアクセスしやすい地理的優位性



建設現場（2025年6月時点）

当社の収益ポテンシャル^{*1}

- 売上高（原料/製品トレーディング）：
300億円/年規模
- 税引前利益（資金調達影響を除く）：
60億円/年以上 + トレーディングからの利益

^{*1}: バイオ燃料取扱量約10万KL/年相当、バイオ燃料価格@300円/L、本合弁会社の純利益率20%以上・配当性向100%（資金調達影響は加味せず）という前提条件のもと、例示を目的として作成した当社独自のシミュレーション値。当社又はプロジェクトの正式な予測値・目標値ではなく、今後の事業進捗や市場動向により変動

41

商業プラントについては、繰り返しになりますが、今回プラントへの15%出資が完了しました。これにより、これまでお伝えしてきた10万KLの取り扱いがある意味、正式に可能になったということになります。

サポート

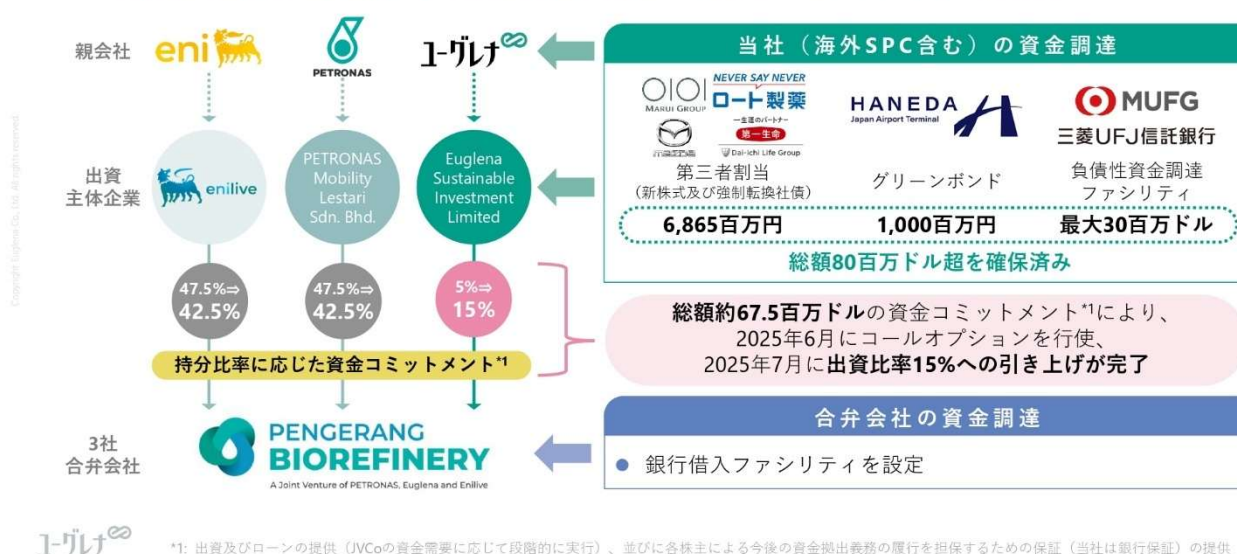
日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

そして、これに紐づく収益ポテンシャルが売上高 300 億円、税前利益は 60 億円というところになります。

このプラント自体も、アジア最大級の大きなプラントで、競争優位性も高いと考えておりますので、2028 年下期の稼働に向けて、建設が進んでいくことになります。

2 商業プラント - 出資比率15%引上げに向けた資金調達スキーム

出資比率15%引上げに伴い、総額約67.5百万ドルの資金コミットメント*1を拠出



今回 15%引き上げの背景にあるのは、我々の資金調達というところですが、最終的に合併会社における資金調達を実施した結果、我々としては 67.5 百万ドルのコミットにより、15%の引き上げが完了しております。

我々はすでに 80 百万ドルの資金を枠として確保しておりますので、上振れも含めてしっかり確保できている、リファイナリーに向けた資金調達に関しては、一段落完全についたという状況になっております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

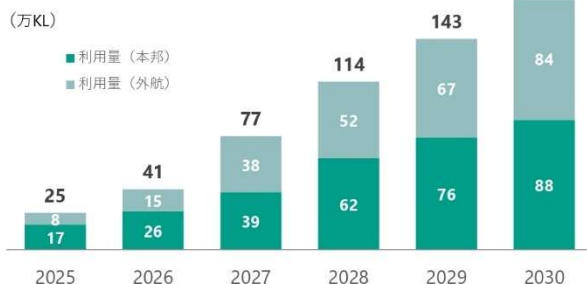
3 国内供給 - SAF需要への対応

2030年に見込まれる172万KLの国内SAF需要に対応すべくパートナーシップを推進



日本のSAF需要見通し^{*1}

- 経済産業省は、2030年に国内で生産・供給されたジェット燃料のCO₂排出量2019年比5%以上削減を石油元売り企業に義務付ける方針を提示
- 持続可能な航空燃料（SAF）の導入促進に向けた官民協議会が2022年に発足（当社も2025年2月より参画）



^{*1}: 経済産業省「第16回資源・燃料分科会 脱炭素燃料政策小委員会 配布資料」を参照
^{*2}: 当社のバイオ燃料製造実証プラント（横浜市鶴見、2024年1月に稼働終了）での製造品

ユーグレナ社の取組

羽田空港におけるパートナーシップ

HANEDA Japan Airport Terminal 日本空港ビルデング（株）

- SAF供給・販売の事業化に向けたサプライチェーン構築の共同検討
- グリーンボンド（10億円）の発行

➡ 最大5万KL/年のSAF供給体制の構築を目指す

当社の供給実績^{*2}



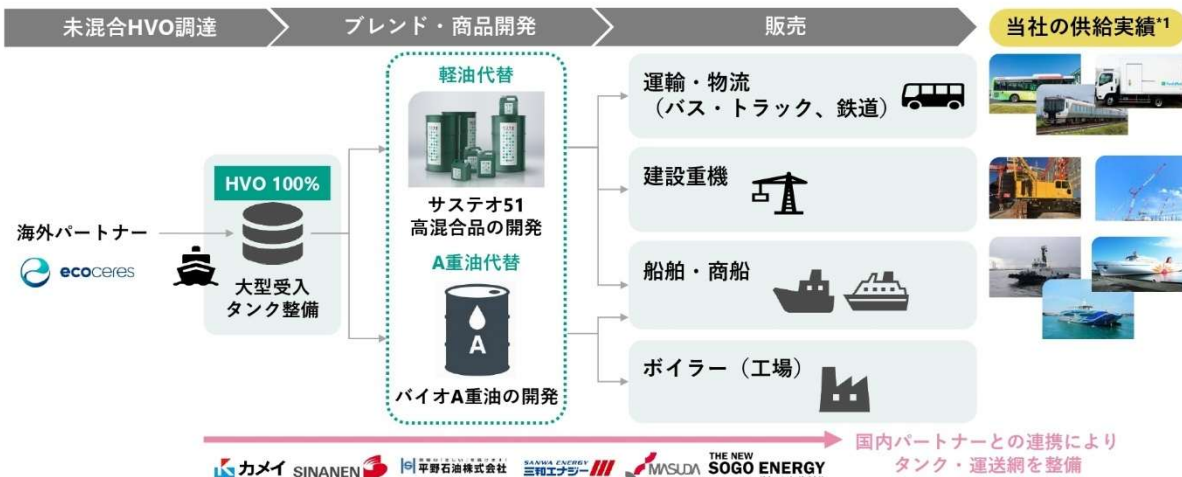
43

SAF に関しても引き続き、大きな需要が見込まれておりますので、我々も SAF の官民協議会に参画し、この実現に向けて、そして羽田空港を運営する日本空港ビルデングさんとのパートナーシップも含めて、引き続き取り組んでまいります。

3 国内供給 - HVOサプライチェーンの構築

電化が困難な液体燃料領域（Hard-to-Abate）における需要拡大を目指す

流通量の大型化による輸送コスト低減、商品の多様化により販売網を拡大



^{*1}: 当社のバイオ燃料製造実証プラント（横浜市鶴見、2024年1月に稼働終了）での製造品

44

サポート

日本 050-5212-7790
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

次世代バイオディーゼル HVO ですけれども、やはりここに関しても、なかなか全て電動化していくのが難しい領域というのがありますので、ここにおける需要というものの拡大に取り組んでまいります。

今回少しアップデートしたいのが、これまではいわゆる軽油の代替としての市場を目指してきておりましたけれども、今後はこの A 重油の代替になるようなバイオ燃料への開発といったものも取り組んでいく、それによって、販売先をより広げていきます。そして、パートナーシップをしっかりと活用していくということを考えて、2028 年の稼働に向けて取り組んでまいります。

再掲

3 国内供給 - HVO普及に向けた取り組み

改正省エネ法^{*1}の対応に利用できるサステオ51^{*2}を開発、HVO普及を加速

実証と社会実装に向け、東京都「新エネルギー推進に係る技術開発支援事業^{*3}」に代表企業として採択

サステオ51の優位性

- 改正省エネ法にて、非化石エネルギー転換に関する中長期計画および定期報告の提出を義務化
- EV、PHEV、水素燃料自動車（FCV含）と並び、**サステオ51使用車は「非化石エネルギー自動車」に該当**
- サステオ51の製造方法は、**特許申請中**

サステオ



三井住友銀行にて、サステオ51使用のマツダ車（ディーゼル車）を社用車として導入、BCP観点でも活用

新たに東京都助成金を獲得

- 前年助成事業^{*4}に続き国内HVO普及を推進
- 助成金活用により**ユーザーのHVO導入負担も軽減**

1-グレイ

各社の役割イメージ

全体統括、新規HVO混合燃料・サービス開発

カメイ株式会社

シナネン株式会社

平野石油株式会社

東急バス

清水建設

ISUZU

TAKENAKA

朝日興産

カメイ株式会社

シナネン株式会社

供給体制整備

新規HVO混合燃料の実証利用

構成企業9社によるコンソーシアムを牽引

^{*1}: エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律（2023年4月施行）。非化石エネルギーを含めた全てのエネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換を求めるとともに、電気の需要の最適化を促す。中長期計画及び定期報告提出の義務化対象者は、特定事業者等、特定貨物/旅客輸送事業者、特定荷主

^{*2}: HVO51%混合軽油

^{*3}: 支援対象となる取組は、新エネルギー及び新エネルギーの利活用・普及に資する製品・サービス等に係る調査研究、技術開発、実証、実装等の取組。支援対象者、支援期間は、交付決定日から3年以内。助成限度額、助成率は、1グループあたり最大30億円。対象となる経費の3分の2以内

^{*4}: 東京都「バイオ燃料活用における事業化促進支援事業」に採択（<https://www.euglena.jp/news/20240830-2/>）

45

また、それを支える動きとしてのサステオ 51、あるいは助成金といったものもしっかりとやっているところです。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

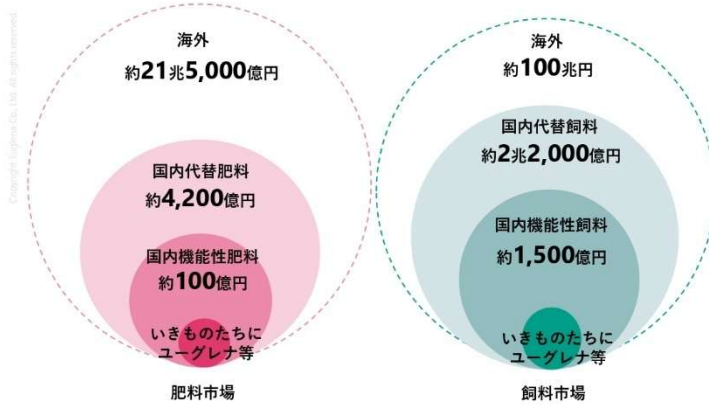
メールアドレス support@scriptsasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

第3の柱 - 市場規模と成長イメージ

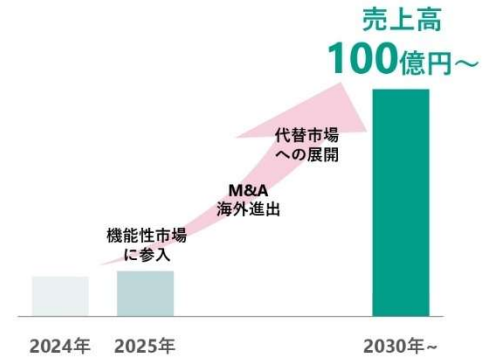
ユーグレナを中心とした微細藻類入り肥料・飼料の研究開発を推進
少量・高単価の機能性肥料・飼料市場から参入し、中期的に代替市場への展開を目指す

市場規模のイメージ*1



中期的な成長イメージ

新商品の開発、M&A、海外進出、
他事業とのシナジーを軸に事業拡大を狙う



ユーグレナ

*1: 当社調べに基づく推定値。機能性肥料はバイオスティミュラント、機能性飼料はプレミックス飼料市場。代替肥料・飼料は化学肥料・飼料も含めた全市場規模

47

最後に、サステナブル・アグリテック、肥料・飼料です。

何度もお伝えしているように、国内あるいは海外の肥料・飼料という市場自体は非常に大きいですが、まずその手前のこの機能性市場というものにしっかり参入し、少しずつ規模を高めていきます。そして M&A、あるいは海外進出も兼ね備えながら、売上高を拡大していく、そういうイメージを描いております。

微細藻類入り機能性肥料・飼料

これまでの研究成果をもとに、機能性肥料・飼料の売上創出を目指す

機能性肥料・飼料の主な研究成果

肥料で土壌・植物を健康にする

微細藻類を土壌に加えることで、生育が良くなることを確認



水菜：生鮮重の増加を確認
パセリ：開花期間が長くなることを確認

飼料で家畜を健康にする

微細藻類入り飼料の給与で成長と免疫機能の向上を確認



ニワトリ
抗体産生が1.2倍 (免疫機能)
体重が1.2倍 (成長)



カンパチ
増重率*1が7%増 (成長)
血液中リゾチーム活性*2が1.3倍



ユーグレナ入り肥料・飼料
の自社ブランドとして
「いきものたちにユーグレナ」
をローンチ



ユーグレナ肥料・飼料を
使用して育てた生産物に対する
「ユーグレナ育ち」認定制度
もローンチ

ユーグレナ

*1: 試験開始・終了時体重の増減率、*2: リゾチームは細菌の細胞壁を分解する酵素 (タンパク質)

48

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

その先駆けとして、今年の6月にユーグレナ入り肥料・飼料の新たなブランド、いきものたちにユーグレナ、というものも立ち上げておりますし、ユーグレナ肥料・飼料を使用して育った生産物に対する認証制度といったものもローンチしております。

サプライチェーン構築 - パートナーシップの活用

製造・販売はグループ会社とパートナーシップを活用し、販売網を開拓

中長期的にはM&Aによる製販機能強化も検討



こういった研究成果を軸に、パートナーシップを組み合わせながら、より多くの農家やその養殖、畜産の事業者様にミドリムシでの肥料・飼料を展開し、それをさらに最終消費者の皆様にも認知いただくことで、引き続き販売網を開拓していく、そういったことを進めてまいります。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

バングラデシュ事業

ソーシャルビジネスを軸に事業ポートフォリオを多様化

貧困・失業・CO₂排出ゼロに資するソーシャルビジネスを目指す

Grameen euglena

ウェルネス向上

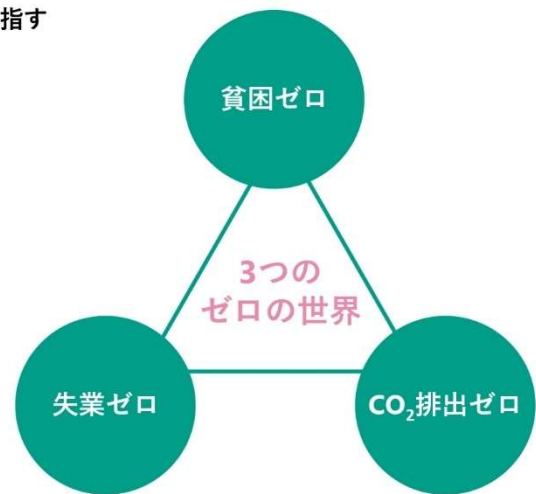
- ユーグレナGENKIプログラムの継続と
現地給食事業等への横展開
- 富裕層・中間層向けヘルスケア商品販売

農作物のソーシャル調達

- 日本企業の農作物輸入ニーズを、
バングラデシュ産品で代替
- 緑豆からゴマ等に多様化

バイオ燃料原料のソーシャル調達

- SAF向け原料サプライチェーン構築に向けて、
助成金を活用し実現可能性調査^{*1}を開始
- 廃食油回収や油糧作物栽培の可能性



ユーグレナ

^{*1}: 当社の「バングラデシュ人民共和国/バングラデシュにおけるSAF向け原料サプライチェーン構築に向けた調査事業」(実施期間: 2025年2月上旬~2025年12月、主な実施内容: UCO回収事業/油糧作物の栽培事業の調査)が、経済産業省「令和5年度補正グローバルサウス未来志向型共創等事業費助成金」に採択

51

バングラデシュに関しても、お伝えしているように、ウェルネスそして農作物のソーシャル調達、そしてバイオ燃料原料の調達、そういったものに取り組んでいきます。

GENKI プログラムでユーグレナクッキーを配るということも引き続きしっかりとやってまいりますけれども、より安定的な事業、ソーシャルビジネスとしての事業になるような取り組みもしっかりと進めていく所存です。

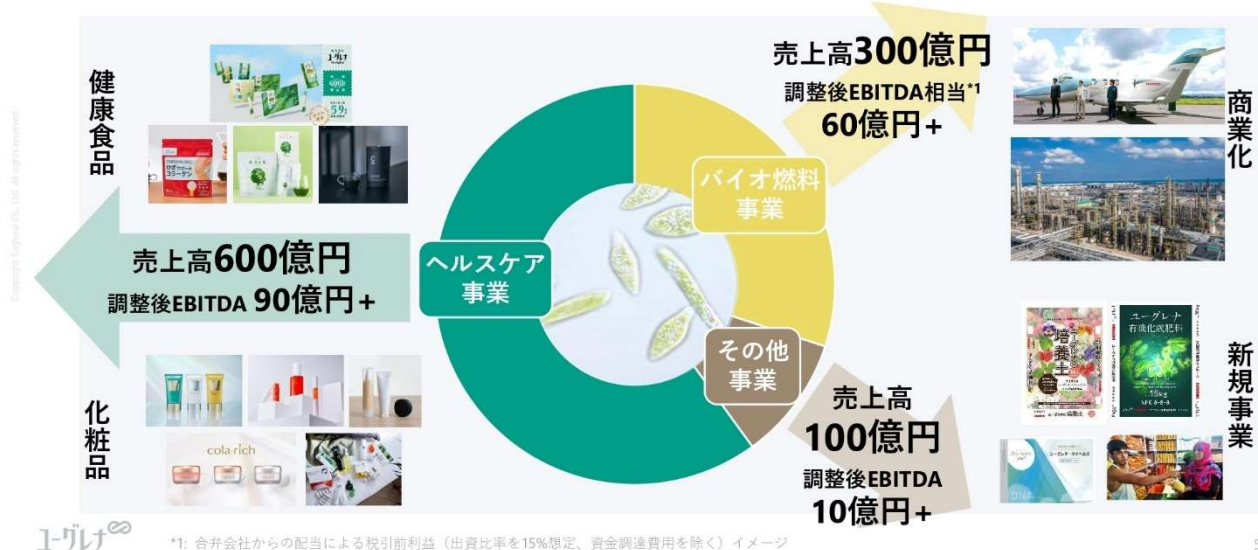
サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

2030年に向けた成長イメージ - 事業ポートフォリオ

既存事業の成長と新たな売上の柱となるシーズの選択肢を確保



53

このように、これまで掲げている 2030 年に向けた成長イメージと、ヘルスケアの拡大、バイオ燃料事業の拡大、その他事業の拡大というものをまさに既存事業の「深化」、そして微細藻類軸の「探索」で引き続き実現してまいります。

決算のご説明は以上となりますので、質疑応答に移らせていただきます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

質疑応答

西田 [M]：それでは質疑応答のお時間に入ります。ご質問のある方はテキストまたは口頭で質問いただくことが可能です。テキストでのご質問は、Zoom 画面上にございます Q&A のタブからご質問をご入力ください。口頭でのご質問をご希望の方は、Zoom 画面上の挙手ボタンを押してください。順番に事務局にて操作いたしますので、操作後マイクをオンにいただき、お話しください。

本日、質疑応答がございましたので、最後に Co-CEO 植村より投資家、メディアの皆様へ、メッセージをお伝えさせていただければと思います。

植村 [M]：本日はお忙しい中、ご参加をいただきまして、誠にありがとうございました。最初に申し上げましたとおり、我々が Co-CEO を始めて 1 年半が経ちました。元々掲げてきたことというのは一つずつ実行できていっていると思います。ここからますます、しっかり黒字化の定着と各ビジネスにおいての更なる期待に応えられるように進んでまいりたいと思っております。20 年の節目から新たな 20 年に向けて、ここからしっかり進んでまいりますので、引き続きよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

西田 [M]：ありがとうございます。

最後に 2 点お知らせがございます。Zoom からご退出される際にアンケートが表示されますので、今後の弊社 IR 活動の参考とさせていただくため、ぜひご協力のほどよろしくお願いいたします。

また、個別 IR 面談も積極的に行っております。ご希望がございましたら、ir@euglena.jp のメールまでご連絡をお願いいたします。

それでは本日の説明会は、こちらで終了とさせていただきます。

お忙しいところご参加いただき、誠にありがとうございました。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、SCRIPTS Asia 株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用をしてはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com